

『自らの命は自らで守る』意識の構築に向けて

～第5回『加古川減災対策協議会』を開催～

R1.5.21

～ 姫路河川国道事務所 ～

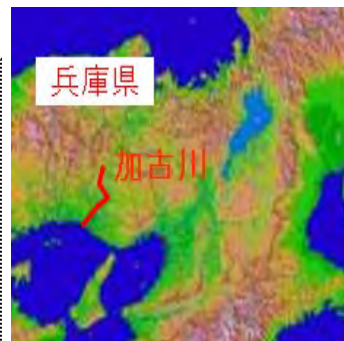
本協議会は、加古川において堤防決壊等に伴う大規模な浸水被害に備え、河川管理者、県、市町等が連携・協力して、減災のための目標を共有し、ハード対策とソフト対策を一体的、計画的に推進することにより、加古川において氾濫が発生することを前提として**社会全体で常に洪水に備える「水防災意識社会」を継承・再構築すること**を目的とするものです。

第5回協議会では、神戸大学 大石哲教授より「頻発する豪雨災害を踏まえた河川のリスク」を、気象予報士 正木明氏より「迅速な避難につながる情報の伝え方」をそれぞれ講演いただき、その後パネルディスカッションによる意見交換を実施しました。また平成30年度の各機関の取組内容を共有しました。

概要

対象河川：加古川水系加古川

- 日 時：令和元年5月21日（火）10：00～12：00
- 場 所：加古川市防災センター 2F大会議室
- 参加者：加古川市長、高砂市長、加東市長、小野市長（代理）、姫路河川国道事務所長、神戸地方気象台長、加古川土木事務所長、東播磨県民局総務企画室長（代理）、加東土木事務所長、北播磨県民局総務企画室長（代理）、神戸大学教授 大石哲氏、気象予報士・防災士 正木明氏 計113名



【講演概要】

神戸大学教授・大石哲氏「頻発する豪雨災害を踏まえた河川のリスク」

- ・昨年7月の倉敷市真備町の被災実態を例に、加古川で起こりうる災害やマイ防災マップを紹介

気象予報士・正木明氏「迅速な避難につながる情報の伝え方」

- ・長年の気象予報や昨年9月の台風21号の際の経験を基に、より多くの人々にわかりやすく伝えられる情報の伝え方を紹介



神戸大学教授
大石哲氏による講演



気象予報士・防災士
正木明氏による講演

【パネルディスカッション】

テーマ

「住民が『自らの命は自ら守る』意識を持つために、行政が支援できること」

- ①：平成30年7月豪雨等を踏まえ、**住民へ避難を促すための課題**は何か？
→避難率の悪さが改めて浮き彫りに。**避難意識を高めること**が課題。
- ②：①を踏まえ、そのために**平時から取組む対策**は何か？
→自治体向けの**出前講座を実施**したり、防災アプリ、メール等**情報伝達体制の構成・確立**を図る。
- ③：①を踏まえ、そのために**非常時に取組む対策**は何か？
→避難情報を、**短く・わかりやすく・時には強い口調**で発する。



加古川市
岡田市長



高砂市
登市長



小野市
小林副市長



加東市
安田市長

パネルディスカッションにおける意見交換の様子

【各機関からの主な取組報告内容】

- 加古川市：災害情報伝達システムの構築
- 高砂市：継続した地域の防災力強化に向けた取組
- 小野市：中小河川の水位監視体制強化
- 加東市：避難所体験訓練の実施
- 県：自主防災組織研修の開催
- 国：危機管理型水位計の設置(12箇所)
- 気象庁：防災気象情報の改善 等



取組を報告する
廣澤気象台長



提言を紹介する
磯部所長

【平成30年7月豪雨を受けた提言（抜粋）】

- ・子供のころから防災意識を高める必要がある。**避難訓練と防災教育を連携できる体制を構築**する。
- ・高齢者にどう逃げてもらうかが重要。リスクを知らせ、**どこに逃げるか事前に決める**ことが必要。

【問い合わせ先】

国土交通省 近畿地方整備局
姫路河川国道事務所 調査課
〒670-0947
姫路市北条1-250
TEL 079-282-8211

